



NPO法人      
 野球医療サポート栃木

# 会報誌

第4号  
 (令和2年度)



## Baseball Medical check-up in Tochigi!!

### 目次

- |                                         |                                                    |
|-----------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 1. 野球医療サポート栃木会報誌4号に寄せて<br>藤田 光明先生 …… 2  | 5. 肩甲骨引き寄せ距離と投球肘障害の関連<br>菅谷 力也先生 …… 6              |
| 2. 野球肘検診に参加して<br>石井 隆夫先生 …… 3           | 6. 小・中学野球選手における全身関節弛緩性と<br>肘障害の関係<br>渡部 健太郎先生 …… 7 |
| 3. 2019年度の栃木県広域野球検診を終えて<br>飯島 裕生先生 …… 4 | 7. 2019年度 栃木県広域野球検診の結果報告<br>飯島 裕生先生 …… 8           |
| 4. 野球児を取り巻く社会問題から思うこと<br>高根澤 潤貴先生 …… 5  | 8. 編集後記 …… 9                                       |



## 野球医療サポート栃木会報誌4号に寄せて

栃木県高等学校野球連盟 藤田 光明

2019年11月、日本高等学校野球連盟では投手の障害予防に関する有識者会議の答申があり、2020年度シーズンから日本高野連（明治神宮大会、国民体育大会を含む）都道府県連盟が主催する公式戦での投球制限が実施されることに決定いたしました。高校野球特別規則に加えられたその内容は1週間500球以内の投球制限の運用、更に投球制限が設けられたことにより「申告故意四球」の運用も認められました。運営面でも競技団体の責務としてなすべきこと的具体策として、3連戦を回避した日程設定を強く求められ、特に後半の4試合（○回戦、準々、準決、決勝）の2日間の予備日をとる設定が具体化されました。この運用は、スポーツ障害予防対策、とりわけ投手の投球過多による障害予防対策であり、長年、野球界全体に対して改善を求められてきた課題に対応したものであります。

本来であれば第92回選抜甲子園大会から実施され、地方大会において春季大会からの実施予定でしたが、感染症対策のため、今年はこれまですべての大会が中止となり未だその運用は実現していません。有識者会議答申時には、とにかく子供達の障害予防のために直ぐ実施をという有識者会議委員と、障害予防には賛成しながらも運営面での問題を指摘する各県役員との間でかなりの議論がなされました。

本県では「野球医療サポート栃木(MSBP栃木)」の2013年からの活動により選手・指導者に対し、学童期から社会人まで選手が継続して野球が続けられる環境を調えることが野球振興と野球力向上につながるという考えの下、先生方のご協力で、野球肘検診をはじめ、さまざまな取り組みがなされてまいりました。高校生からの投球制限だけではその目的は十分に果たせないことは、これまでの活動でよく理解しております。そのためにも成長期の小中高生を対象とした全県あがての野球肘肩検診は、「医療サポート栃木」の先生方のご指導の下、野球少年が継続して野球が続けられる環境を調えることが野球振興と野球力向上につながるものと考え、本連盟の事業の中でも重要な取組みとして、今後も実施していただきたいと考えております。(感染症対策のため検診スタイルの変更も必要とお聞きしました) そのバックアップは惜しみません。

今年このような状況でまだまだ先行きの不安な状態ではありますが、少しでも元の状態、それ以上の取組みを取り戻していきたいと思っています。このような状況の中、連盟HPにて「新型コロナウイルスの正しい基礎知識による予防法」「安全なスポーツ再始動のために」「ストレッチ法」等々、専門的に掲載していただいております、特にスポーツ活動休止による身体的変化、活動再開時の負荷の上げ方など、指導者として大いに参考にさせていただいておりますし、何より、一野球連盟のHPとしましても、実に内容のあるクオリティの高いものにしていただいておりますことに大変感謝しております。

おかげさまで我々も成長期の子供達（野球少年）の野球障害の現状や環境の整備、指導者の意識、知識の向上と多くの事を学ばせていただいております。今後も変化していくであろう様々な障害の予防方法や取組み等積極的に学ばせていただき、すべての野球少年達が大人になっても野球が継続できるよう、また前途のある有望な子が小・中学生の時に障害であきらめてしまうことのないよう、高校・社会人まで末永く野球を楽しむ子供の育成のため、そして高校野球が子ども達の憧れ・目標となれるように、活動努力していきたいと考えています。新しい時代を迎え、さらに栃木県の高校野球のレベルをアップしていくために、医療サポート栃木の先生方からのご支援を今後ともよろしく願いいたします。



## 野球肘検診に参加して

栃木県臨床整形外科医会 いしい整形外科 石井 隆夫

最近では運動をする子供としない子供の2極化が進んでいます。私は中学校の学校医をしていますが、生徒間の体力や柔軟性にバラツキがあり、学校の先生達は生徒の運動時の怪我の防止等に苦労している様です。幼少期から運動習慣を身に付けることは体力向上の面からは良いと思いますが、一方で同一スポーツで同一動作を繰り返すことによる障害が問題になっています。野球肘検診で肘の早期の障害を発見し、大きな障害への進展を予防することは、選手達の将来にとっては大変意義のある事だと思います。

初回はTCOS（栃木県臨床整形外科医会）を通じての参加依頼であったと思いますが、4年位前より年2回程度検診に参加しています。当初は、普段、小中高生の肘をエコーで診ることはあまりないので、肘のエコーの診断技術向上等の個人的な目的もありました。実際に参加してみると、無症状でも上腕骨の軟骨損傷を有する選手が毎回数名おり、早期発見できて良かったと思うと同時に、この検診のシステムを作り上げた前代表の笹沼先生をはじめとする初期の野球医療サポート（MSBP）栃木メンバーの努力と先見性に感心しました。

また、エコー検診後の、理学療法士による選手へのフォームやストレッチの指導にもインパクトをうけました。指導を受けている選手達もリラックスした雰囲気生き生きとしており、指導後の表情も満足気のように見えました。障害を起こさないように日頃から柔軟性を養うことや正しく体を使うことの必要性および、理学療法士の役割の重要性を実感しました。以前、私が勤務医であった時にはリハビリテーションスタッフとの連携はあまり強くありませんでしたが、MSBP栃木では医師と理学療法士の壁がなく、一体として活動していると感じました。

検診には多くの業者も協力しており、様々なエコーの器械を見ることができ、自身の所属に関係なく他の参加している医師やスタッフと知り合いになれる等のメリットもあります。

また、検診時に保護者や指導者に対し講習が行われていますが、前回中島先生も述べていたように、保護者や指導者の、野球肘の病態や医療機関受診の必要性についての理解が年々進んでいる様に思います。以前には指導者と医療機関との間になんとなく距離がある様に感じられましたが、検診を繰り返すことで、近年は徐々にその距離も近づきつつあると思われました。

今年はコロナウイルス感染拡大のため、検診自体が行われるか否か先行き不透明ではありますが、今後の継続のためには一人一人の負担が重くなりすぎないように、新たに参加する医師や理学療法士を確保することが大切だと考えます。また、野球のみならず、スポーツ界全体にこのような検診が行われる事が理想と思います。私自身は微力ではありますが、可能な範囲での協力を続けていくつもりです。今後ともよろしくお願いたします。



## 2019年度の栃木県広域野球検診を終えて

野球医療サポート栃木 理事長  
自治医大整形外科 飯島 裕生

2019年度も栃木県高校野球連盟の先生方を中心に野球検診に携わる多くの方々に支えられて無事に栃木県広域野球検診を終えることが出来ました。この場をお借りして心より御礼を申し上げます。2018年度の野球検診とほぼ同様のスタイルで栃木県内を4地域に分けまして、検診を行わせて頂きました。検診は参加スタッフの負担を少しでも減らすために1日は2会場を同時に行い、合計3日間のスケジュールで開催いたしました。いずれの会場も高校野球連盟の先生方のご準備のお陰様で検診をスムーズに進めることが出来ました。

一方で、2018年度との違いに関しましては、①検診で使用する超音波のレンタルが有料となった点、②会場として高校を使用することが難しくなった点が挙げられます。これまでは、超音波メーカーのご厚意により、超音波をお借りすることが出来ましたが、2019年度からは超音波のレンタル料金が発生するようになりました。こちらは高校野球連盟にご負担して頂くことで、検診を実施することが可能となりました。また、2018年度は主に会場として県内高校の体育館を使用しておりましたが、こちらの使用が難しくなり、高校野球連盟に市営の体育館や公民館、大学の施設を準備して頂きました。いずれの施設も暖房設備が整っており、暖かい部屋で検診を行うことが出来ました。冬の検診において暖かい部屋で検診を行えることは選手にとっても検診スタッフにとっても非常にありがたく感じました。

検診の内容に関しましては、例年同様に小学生、中学生の肘離断性骨軟骨炎の超音波での早期発見を最も重要な項目としております。超音波で肘離断性骨軟骨炎が疑われれば、検診会場で野球医療サポート栃木のスタッフの勤務する病院への紹介状をお渡しさせて頂きました。検診結果を説明する際には肘の障害が見つかり涙を流す選手もいました。選手たちが大好きな野球を続けるために、改めて野球検診の意義や責任の重さを自覚しました。

検診で得られた選手たちのデータをきちんと将来に還元することも私たちの重要な仕事の一つと考えております。2017年度は肩甲帯機能を簡便に評価する方法として「肩甲骨引き寄せ距離」を調査し、2018年度は「全身弛緩性と肘障害の関連」を調査させて頂きました。これらの貴重な調査データは理学療法士の菅谷力也くん、渡辺健太郎くんがそれぞれ医学論文としてまとめて論文投稿してくれています。今回の誌面でも、その内容をご紹介させて頂きました。いずれの研究内容も野球障害の現場に即した、非常に有用な内容であると考えております。また2019年度は新たな検診項目として筋肉の硬さを簡便に測定可能な筋硬度計を用いて高校生の「肘関節内側筋の硬さと野球障害の関連」を調査しました。調査結果は改めてご報告させて頂ければと思います。このような取り組みにより栃木県から野球障害の予防や治療に役立つ情報を全国に発信し続けて行ければと思います。

2020年度は新型コロナウイルスにより社会活動もスポーツ業界も多大な影響を受けています。一方で、私達にとってスポーツがかけがえのないものである事を改めて実感することも出来ました。野球検診のスタイルも変更せざるをえない時代と考えておりますが、選手たちを第一優先として、責任をもってサポート活動が出来るように頑張りたいと思います。

今年度も引き続き野球医療サポート栃木を宜しくお願い致します。



## 野球児を取り巻く社会問題から思うこと

社会医療法人博愛会 菅間記念病院  
理学療法士 高根澤 潤貴

野球医療サポート栃木が発足されて早くも5年が経ちますが、高校野球連盟をはじめ、多くのご協力の下に、野球肘検診が継続できていることを大変嬉しく思います。今や野球肘検診は全国的な広がりを見せておりますが、栃木県においても選手や指導者、保護者の方々に、障害予防や早期治療の必要性を認識して頂けるようになり、これまでの活動の意義を実感している次第です。

野球児を投球障害から守るべく検診活動が続けられていますが、野球児の成育に関わる課題は、より複雑化しているように思えます。近年、子どもの身体機能水準の低下が問題視され、テレビゲーム等の非活動的余暇時間の増加が指摘されています。私は医療従事者として野球選手に関わる中で、スクワットで背筋を伸ばせないとか、踵を付いたまましゃがみ込めないといった、動作能力が低い子どもが多いことに驚かされます。基本的な動作能力が低下した子どもが、身体により負担がかかる投球動作を繰り返すともなれば、簡単に故障してしまうでしょう。つまり、子どもたちの障害予防の為には、成長過程における運動能力の底上げが必要だと考えられます。

子どもたちが運動能力を身に付ける場合は、時代の経過とともに失われつつあります。放課後に山や川で走りまわる、こういった自由な遊びによって自然と体の使い方を覚え、スムーズにスポーツの動作に馴染んでいく、これが本来の理想なのかと思います。現代においては、運動能力が身に付かないまま野球チームに入り、ほとんど一から投げ方や打ち方を学んでいくという状況も少なくありません。私はこのような子どもたちに、はじめから野球だけを教え込むのではなく、基礎的な身体の使い方や体力を身に付けられる仕組みがあっても良いのではないかと考えることがあります。現代社会において、子どもの発育の問題を家庭の力だけで改善していくのは大変です。野球医療サポート栃木は、検診活動を主体として選手をその家族やチームの指導者、野球連盟、医療とで結んだ連携の輪によってサポートしていますが、社会問題や子どもたちの抱える課題に柔軟に対応できる組織に発展していくことが求められるのかもしれない。野球指導に求められることは、単に勝つことや甲子園に行くことばかりではなく、現代社会で子どもたちを健やかに成長させられる場であることです。

昨今、世界を震撼させている新型コロナウイルス感染症の影響は、スポーツの在り方までをも変えつつありますが、人に学びや成長、心の安らぎをもたらす、生活を豊かにしてくれるスポーツは、もはや必要不可欠なものになっています。たとえ野球の楽しみ方が変わるとしても、これから社会を担っていく子どもたちに確実に引き継がれ、次の時代の子どもたちも野球に親しみを持ってくれることを願っています。今後も野球医療サポート栃木の活動が、多くの同志の協力の下で末永く続き、栃木県から日本の野球界を盛り上げていけるような発展を期待したいと思います。

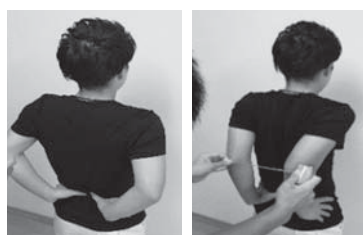


## 肩甲骨引き寄せ距離と投球肘障害の関連

株式会社エイジェックススポーツマネジメント  
理学療法士 菅谷 力也

この度、表題の論文が理学療法ジャーナル（医学書院）に採択されましたので報告させていただきます。この論文は、野球肘障害をスクリーニングする簡便な評価方法の発見のために行った研究になります。以下に研究内容の概略を述べさせていただきます。

【目的】肩甲上腕関節と肩甲胸郭関節の複合運動を評価する肩甲骨引き寄せ距離（Scapular Retraction Distance：以下、SRD）と高校生野球選手の投球肘障害との関連について調査した。【方法】対象は野球肘検診に参加した高校生野球選手222名である。投球肘障害群と健常群の2群間に分け、アンケート調査とSRDおよび肩甲上腕関節2nd外旋（以下、ER2）を比較検討した。SRDに関しては、Receiver operating characteristics（以下、ROC）曲線を用いて投球肘障害に対するカットオフ値を算出し、得られたカットオフ値を基に2群間での投球肘障害の割合を比較した。【結果】投球肘障害群での平日練習時間、SRDは有意に高値であり、ER2では有意に低値であった（ $P<0.025$ ,  $P<0.01$ ,  $P<0.026$ ）。ROC曲線を用いて、投球肘障害に対するSRDのカットオフ値は24.75cm、感度0.43、特異度0.76、AUC0.63であった。カットオフ値以上の選手における投球肘障害の割合が有意に高かった（ $P<0.01$ ）。【結論】SRDは投球肘障害の予測因子である可能性が示唆された。



A. 開始肢位

B. 測定肢位

図1. SRDの評価方法

被験者を立位とし両母指を第5腰椎棘突起に合わせ、検査者は疼痛が出現しない範囲で他動的に両肘頭を近づけ両肘頭内側間をメジャーにて測定する。

表1. 投球肘障害群と健常群の比較

	肘痛あり群(n=44)	肘痛なし群(n=178)	P-Value
身長(cm)	171.4±6.1	171.5±6.0	$P<0.883$
体重(kg)	69.8±9.6	68.1±8.9	$P<0.253$
野球開始年齢(歳)	8.6±1.9	8.7±1.6	$P<0.909$
野球経験年数(年)	8.02±2.0	7.63±1.7	$P<0.185$
平日練習時間(時間)*	4.1±1.1	3.7±1.0	$P<0.025$
休日練習時(時間)	7.6±9.3	6.4±2.0	$P<0.126$
ポジション(投手：野手)	18：24	85：86	$P<0.426$
SRD(cm)*	33.1±4.8	15.2±7.9	$P<0.01$
投球側ER2(°)*	120.3±13.8	128.6±17.4	$P<0.026$

表2. カットオフ値を用いた2群間における投球肘障害の割合

	投球肘障害群(n=44)	健常群(n=178)
SRD 24.8cm未満	0	160
SRD 24.8cm以上	44	18



## 小・中学野球選手における全身関節弛緩性と肘障害の関係

とちぎメディカルセンターしもつが  
理学療法士 渡部 健太郎

野球検診において成長期野球選手の全身弛緩性を評価し、野球肘障害との関連性を調査したものを日本整形外科学会スポーツ医学会へ投稿しています。ここでは論文の概略を述べさせていただきます。

【はじめに】投球障害発生要因として肩関節や脊柱や肩関節、肘関節の可動域制限が関係すると言われている。関節可動域評価を行うことが障害予防に有用とされているが、可動域に影響を及ぼす身体特性の一つとして全身関節弛緩性（以下：GJL）がある。スポーツ障害との関連性については様々な報告がされているが野球における一定の見解は得られていない。2018年度広域野球肘検診にて小中学野球選手の肘障害とGJLの関係を調査したので報告する。【対象】2018年度の栃木県広域メディカルチェックに参加した小・中学野球選手915名【方法】GJL評価としてCarter test（図1）を用い、問診にて投球時の現在と過去の肘痛の有無を調査した。データ解析はSPSSを用いてカイ2乗検定を行った。有意水準は5%とした。【結果】小学生、中学生の肘障害はそれぞれGJL陽性群で20名(34%)、8名(40%)、GJL陰性群で136名(32%)、120名(40%)であった（表1）。過去の肘障害はそれぞれGJL陽性群で18名(40%)、12名(63%)、GJL陰性群で157名(36%)、237名(59%)であった（表2）。超音波検査で肘小頭離断性骨軟骨炎と診断された選手はGJL陽性群3名(3.8%)、GJL陰性群22名(2.6%)であった。GJL陽性群とGJL陰性群において肘障害の頻度に有意差は認めなかった。【結論】小中学生野球選手の肘障害とGJLに関連性はみられなかった。

図1 Carter test

左右各項目での陽性を1点とし、合計6点以上がGJL



### 陽性判定基準

1. 母指が前腕に着く
2. 2-5指が前腕と平行
3. 肘が10°以上過伸展する
4. 膝が10°以上過伸展する
5. シャがみ位で45°以上背屈する

表1 GJLと肘障害の関係

小学生 (名)	肘障害あり	肘障害なし	中学生 (名)	肘障害あり	肘障害なし
GJL陽性	20	39	GJL陽性	8	12
GJL陰性	136	296	GJL陰性	120	284

表2 GJLと過去の肘障害の関係

小学生 (名)	過去に肘障害あり	過去に肘障害なし	中学生 (名)	過去に肘障害あり	過去に肘障害なし
GJL陽性	18	40	GJL陽性	12	237
GJL陰性	157	275	GJL陰性	237	168

## 2019年度 栃木県広域野球検診の結果報告

野球医療サポート栃木 理事長 飯島 裕生

## 1) 2019年度野球検診の日程、会場、参加人数

	小山・栃木・芳賀地区 2019/12/8	佐野・足利地区 2019/12/15	県北(塩谷/那須)・上都賀地区 2019/12/15	宇都宮地区 2020/1/26	合計
検診会場	小山市桑市民交流センター 「マルベリー館」	佐野市城北公民館	さくら市氏家体育館	作新学院大学	
小学生	200	127	111	259	697
中学生	187	137	65	160	549
高校生	31	43	30	—	104
選手合計	411	407	206	419	1350

## 2) 活動内容

- ・事前アンケート
- ・肘理学所見：圧痛(内側上顆、腕頭関節、肘頭圧痛)、外反ストレステスト(30度、60度、90度)  
尺骨神経Tinel signの有無、肘過伸展時痛の有無、可動域制限の有無(肘伸展、肘屈曲)  
(円回内筋、尺側手根屈筋の圧痛 ⇒ 高校生のみ)
- ・手関節掌屈(°)、背屈(°)、肩関節2nd外旋(°)、内旋(°)、股関節内旋(°) ⇒ 高校生のみ
- ・筋硬度計による円回内筋、尺側手根屈筋の計測(N) ⇒ 高校生のみ
- ・超音波検査：肘離断性骨軟骨炎(OCD)の評価 ⇒ 小中学生のみ
- ・ストレッチ指導、指導者・保護者への講習会

## 3) 野球障害の割合(2016,2017,2018年度と合わせて)

## ①小学生中学生における野球障害

	選手数	肘内側障害	OCD	肩障害	投球時しびれ
2016年度	1363名	16.3%	3.3%	8.7%	10.4%
2017年度	1347名	6.3%	2.9%	4.1%	7.6%
2018年度	1187名	7.3%	2.5%	2.1%	7.7%
2019年度	1246名	10.2%	3.2%	5.0%	7.2%

## ②高校生における野球障害

	選手数	肘障害	肩障害	投球時しびれ
2016年度	302名	24.1%	18.0%	26.0%
2017年度	236名	19.9%	15.5%	17.3%
2018年度	121名	20.0%	10.4%	13.6%
2019年度	104名	13.4%	16.3%	9.6%



## 野球医療サポート栃木 ホームページのご案内



☆野球医療サポート栃木のホームページも随時更新しております。  
是非ご覧ください。

### 編集後記

野球医療サポート栃木 理事長 飯島裕生

多くの方々の御協力により本年度も野球医療サポート栃木（第4号）の会報誌を無事に発刊することが出来ました。本当にありがとうございます。

2020年度は、新型コロナウイルスの影響により全てのスポーツが大変な打撃を受ける年となりました。特に高校野球においては、春の選抜高校野球大会が史上初の中止となり、夏の甲子園大会も戦後初の中止となりました。全国の高校野球連盟の先生方にとって、大会の中止は世間の注目度も高く、苦渋の決断であったかと思います。また高校生野球選手には甲子園は何物にも代えがたい目標であり、彼らの心情は察するに余りあるものがあります。新型コロナウイルスは未だに終息はしておらず、これからも沢山の課題が出てくるかと思っています。日本の文化である野球というスポーツがこれまでのように継続されて行くことを切に願います。

この原稿を書いている7月末の時点では、2020年度の栃木県広域野球検診をどのように行っていくかは決まっていない状況です。今後の新型コロナウイルスの動向を踏まえつつ、例年とはまた違った形式になるかもしれませんが、栃木県内の野球選手たちをサポートして行ければと思います。野球医療サポート栃木のホームページからも出来る限り様々な情報提供が出来るように準備させていただきます。引き続き野球医療サポート栃木へのご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

発行・編集 NPO法人野球医療サポート栃木  
事務局：自治医科大学 整形外科学教室  
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1  
TEL：0285-58-7374

印刷 (株)松井ピ・テ・オ・印刷  
〒321-0904 栃木県宇都宮市陽東5-9-21  
TEL：028-662-2511(代)

かけがえない命の手助け…



『人と医療』のパートナー

## サンメディックス株式会社

本社 〒104-6136  
東京都中央区晴海1-8-11 晴海トリトンスクエアY棟36階  
TEL 03-5144-0855(代) FAX 03-5144-0850

- |                                    |                 |                                 |                     |                                 |                 |
|------------------------------------|-----------------|---------------------------------|---------------------|---------------------------------|-----------------|
| <input type="checkbox"/> 宇都宮支店     | 〒320-0074       | 栃木県宇都宮市細谷町388-1                 | TEL:028-616-1580(代) | FAX:028-623-7350                |                 |
| <input type="checkbox"/> 東京第一支店    | 〒179-0075       | 東京都練馬区高松6-35-15                 | TEL:03-5923-6235(代) | FAX:03-5393-3057                |                 |
| <input type="checkbox"/> 東京第二支店    | 〒130-0014       | 東京都墨田区亀沢4-17-12                 | TEL:03-5619-4551(代) | FAX:03-6859-0016                |                 |
| <input type="checkbox"/> 東京第三支店    | 〒168-0063       | 東京都杉並区和泉1-22-19                 | TEL:03-6680-0460(代) | FAX:03-6680-0538                |                 |
| <input type="checkbox"/> 川崎支店      | 〒216-0005       | 神奈川県川崎市宮前区土橋1-21-5              | TEL:044-870-6377(代) | FAX:044-866-3813                |                 |
| <input type="checkbox"/> 横浜支店      | 〒240-0005       | 神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町134              | TEL:045-348-7260(代) | FAX:045-348-7261                |                 |
| <input type="checkbox"/> 相模原支店     | 〒252-0236       | 神奈川県相模原市中央区富士見6-15-2            | TEL:042-756-4234(代) | FAX:042-776-9092                |                 |
| <input type="checkbox"/> 首都圏物流センター | 〒143-0006       | 東京都大田区平和島6-1-1 東京流通センターA棟3F     | TEL:03-5764-5110(代) | FAX:03-5764-5119                |                 |
| <input type="checkbox"/> 小山営業所     | 0285-30-3388(代) | <input type="checkbox"/> 埼玉営業所  | 048-640-6621(代)     | <input type="checkbox"/> 山梨出張所  | 055-280-8015(代) |
| <input type="checkbox"/> 佐野営業所     | 0283-21-1007(代) | <input type="checkbox"/> 埼玉西営業所 | 0493-21-7310(代)     | <input type="checkbox"/> 長野営業所  | 026-229-8030(代) |
| <input type="checkbox"/> 水戸営業所     | 029-305-6125(代) | <input type="checkbox"/> 千葉営業所  | 043-244-6322(代)     | <input type="checkbox"/> 松本営業所  | 0263-24-1125(代) |
| <input type="checkbox"/> 筑波営業所     | 029-850-5185(代) | <input type="checkbox"/> 多摩営業所  | 042-348-5011(代)     | <input type="checkbox"/> 名古屋営業所 | 052-218-2735(代) |
| <input type="checkbox"/> 前橋営業所     | 027-280-4433(代) | <input type="checkbox"/> 厚木営業所  | 046-296-2822(代)     |                                 |                 |

URL : <http://www.sunmedix.co.jp> E-mail : [mailbox@sunmedix.co.jp](mailto:mailbox@sunmedix.co.jp)



# 医療と共に歩む、信頼のメラ製品。

柔軟な発想力と、確かな技術力。そして人々の健康を願う気持ちが、優れた医療機器を生み出します。

- 人工心肺装置、人工肺、人工弁に代表される人工臓器及びディスプレイ製品の製造販売
- IABP補助循環装置の製造販売
- 手術室で使用される、電気メス、麻酔システム及びディスプレイ製品の製造販売
- 人工関節の製造販売
- 病医院機器の販売
- 医療機器の輸出入業務



 MERA 泉工医科工業株式会社

■本社：〒113-0033 東京都文京区本郷3-23-13 TEL.03-3812-3251(代) FAX.03-5689-5829

■営業拠点：札幌支店・函館・東北支店・青森・盛岡・福島・関東支店・つくば・松本・新潟・東京支店・横浜・中部支店・静岡・金沢・関西支店・中四国支店・岡山・高松・九州支店・鹿児島

[www.mera.co.jp/](http://www.mera.co.jp/)

